

大妻タイムズ

OTSUMA TIMES

CONTENTS

地域との交流	1
令和元年度 プロジェクト始動	3
地域連携プロジェクト	4
地域連携活動	6
小学生対象 夏休み企画	7
キャンパスコンソ	8
包括交流協定	8

地域との交流

「みたままつり」で恒例の神輿振りを奉納

昭和22年に始まった「みたままつり」が、7月13日（土）から16日（火）までの4日間、東京都千代田区の靖國神社で開催されました。

15日（月）18時30分からは、大妻女子大学の学生およそ80名が参加し、高張り提灯を先頭に大妻女子大学と麹町靖國講による「神輿振り」が盛大に行われました。

当日は、バスケットボール部、バドミントン部、バレーボール部、ラクロス部、児童学科の石井ゼミ、一般応募の学生が威勢のよい掛け声を響かせながら神輿を担ぎ、多くの人出でにぎわう靖國神社境内を練り歩きました。おそろいの赤い法被（はっぴ）を身にまとって一致団結した学生が、神社入口の鳥居から一番奥の拝殿まで約30分間、元気よく神輿を担ぎました。



地域との交流

「大妻女子大学パイプオルガンコンサート」を開催

6月1日(土)、大妻講堂で、「大妻女大学パイプオルガンコンサート」を開催し、およそ600人が来場しました。

今回演奏したのは、ドイツ出身で「世界最高の音楽性を持ったオルガニスト」と評価されるほど著名なオルガニストであるエルンスト・エーリヒ・シュテンダー氏。バッハ、ドヴォルザーク、ベートーヴェンの名曲作品のほか、滝廉太郎の「荒城の月」など日本の名曲も披露しました。来場者からは「パイプオルガンの音色と演奏が素晴らしかった」「今後もコンサートを継続して開催してほしい」などの感想が寄せられました。

演奏終了後、会場出口では募金(任意)が行われ、募金190,627円は全額「あしなが育英会」に寄付しました。



「スコットランド オーケストラ コン서트」を開催

「スコットランド オーケストラ コン서트」を7月3日(水)に大妻講堂で開催し、およそ450人が来場しました。

今回演奏したエアシャー・フィドル・オーケストラは弦楽器奏者の団体で、スコットランドの南西部サウス・エアシャーを拠点に活動し、1986年から伝統的なスコットランドの音楽と踊りを世界に届けています。過去には、ウエストミンスター宮殿、欧州議会、シドニーのオペラハウス、アメリカのホワイトハウスでも演奏活動をしてきました。日本に来るのは今回が初めてで、その最初のコンサート会場に本学が選ばれました。

このコンサートでは、バグパイプ(民族楽器の一つ)の

演奏に始まり、弦楽器を中心とした演奏とスコットランドの踊りと歌を披露。ジャンプをしながらの弦楽器演奏もあり、そのパフォーマンスに誰もが驚き、伝統音楽に合わせた踊りに手拍子をしたり、一緒に歌ったりと会場が一体となって観客が楽しんでいった点が、とても印象的でした。

また、当日は本学と日頃より親交の深い駐日英国大使館より、セーラ・マデン英国大使夫人がお見えになり、最後までコンサートを楽しんでいらっしゃいました。

なお、来場者から寄せられた募金100,408円は全額「あしなが育英会」に寄付しました。



令和元年度 プロジェクト始動

「地域連携プロジェクト」「地域貢献プロジェクト」採択式を開催

「地域連携プロジェクト」「地域貢献プロジェクト」の採択決定通知授与式及び事務説明会が、6月15日（土）13時から千代田キャンパス本館E棟で行われ、採択されたプロジェクトの代表者が集まりました。

今年度は地域連携プロジェクトに14件、地域貢献プロジェクトに9件の応募があり、それぞれ12件、4件が採択されました。採択された各プロジェクトの代表者とプロジェクト名は次のとおり。

【地域連携プロジェクト】採択一覧

採択者氏名	所属	採択課題
石井 雅幸	家政学部 教授	・三番町アダプトフラワーロードの会との地域美化活動
小川 浩	人間関係学部 教授	・障害者雇用企業との連携によるTボール大会の開催
加藤 悦雄	家政学部 准教授	・子どもの育ちを地域で見届ける「大泉こども食堂」プロジェクト
川之上 豊	家政学部 常勤特任教授	・大妻囲碁フェスター坂の上の街を囲碁で盛り上げるー
甲野 毅	家政学部 准教授	・千代田&多摩地域 子供自然体験教育プロジェクト
炭谷 晃男	社会情報学部 教授	・多摩NTにおける子どもと中高年の居場所づくり
田中 直子	家政学部 教授	・むささび食堂：食事がつなぐ地域の輪
深水 浩司	教職総合支援センター 常勤特任講師	・神保町の出版と書店を元気にするプロジェクト2019
細谷 夏実	社会情報学部 教授	・能登の里海を守る：地域の活性化と海育普及プロジェクト
堀 洋元	人間関係学部 准教授	・体験から学ぶ防災～防災と言わない防災を目指して～
松本 暢子	社会情報学部 教授	・多摩市における街区公園改修に関するプロジェクト
八城 薫	人間関係学部 准教授	・からきだ匠（たくみ）カフェ～地域がつながる場所～

【地域貢献プロジェクト】採択一覧

採択者氏名	所属	採択課題
川口 美喜子	家政学部 教授	・働く男性女性のプレコンセプションケアの支援
渡邊 顕彦	比較文化学部 准教授	・Likio Ellinidon：ギリシャ伝統舞踊公演
堀口 美恵子	短期大学部 教授	・大妻力による世羅町の6次産業支援を区民の健康力向上につなげる地域貢献活動について
深水 浩司	教職総合支援センター 常勤特任講師	・多摩図書館ツアー2019（学びのかなめ、公共図書館、学校図書館、大学図書館、そして世界の図書館を知る）

地域の方との懇談会を開催

地域の方との懇談会を6月15日（土）、大妻女子大学G棟3階のアクティブラウンジで開催しました。

この懇談会は、地域住民から本学に求める活動等について意見を聴く機会として毎年開催しています。

当日は、本学近隣の町会・商店街振興組合の役員の方々など、およそ20人が出席しました。

初めに、本学の地域連携活動の取り組みを、人間関係学部人間関係学科の堀洋元准教授、社会情報学部環境情報学専攻の細谷夏実教授、人間関係学部人間福祉学科の藏野ともみ教授の3人が代表で発表。また、地域連携・地域貢献活動をより知ってもらおう試みとして、短期大学部家政科食物栄養専攻の堀口美恵子教授による体験コーナー「染色コサージュ&ワイヤークラフト～世羅町の香りをつめて～」を実施、参加された地域の方々が楽しそうにハーバリウムやコサージュ作りを体験していました。



地域連携プロジェクト

活動報告

地域連携プロジェクトとは、地域連携活動の一層の推進と発展を図ることを目的として、地域社会と連携し、地域の活性化につながる活動、学生が主体的に参加する活動、成果を学生の教育に反映できる活動に携わる教職員のグループまたは教職員と学生のグループを支援するプログラムです。

「能登の里海を守る：地域の活性化と海育普及プロジェクト」

< 社会情報学部環境情報学専攻 細谷 夏実 教授 >

本プロジェクトでは、能登の里海の大切さを多くの人に知ってもらい、利活用に向けた理解を広げるための情報交換と発信、子どもたちの海の体験の場づくりを目的として、これまで私たちが行ってきた取り組みを発展させるために活動しています。昨年夏には、私たちの活動がきっかけとなり、大妻女子大学と能登の穴水町が包括連携協定を結びました。

私たちが続けている活動の一つに、毎年学生とともに能登に出かけてフィールドワークを行い、その結果をまとめて大学祭などのイベントで展示・紹介を行うという取り組みがあります。今年も、夏休み（8月5～9日）に能登に出

かけ、伝統漁であるボラ待ち樽漁復活に尽力している方たち、野生の椿の保全や活用を目指した取り組みを行っている方たちなど、地域で活動している多くの方たちのお話を伺い、現地の調査も行ってきました。さらに今回は、野生の椿の活用法として、地元の穴水高校の生徒と一緒に、自分たちで手もみした「椿茶」の商品化を目指す試みも始めています。

文化祭（10月26・27日）では、「能登展」を出展し、穴水高校の生徒も参加して、活動の成果や能登の魅力を発信するとともに、椿茶をはじめとした地元の特産物の紹介・販売などを行いました。



ボラ待ち樽漁復活に尽力している方のお話を聞く



鹿波椿保存会・穴水高校の方たちと一緒に



蒸して焙煎した椿の葉を手もみして「椿茶」に

「千代田&多摩地域 子供自然体験教育プロジェクト」

< 家政学部ライフデザイン学科 甲野 毅 准教授 >

家政学部ライフデザイン学科環境教育学ゼミナールは、4年前から環境イベントに出展するようになり、今年で5回目の参加となります。毎回来訪者に向けて、環境への意識を高めるような参加型のイベントを実施しています。今回の立川市環境フェアは、「千代田&多摩地域 子供自然体験教育プロジェクト」の4つのプロジェクトの内、唯一の自治体主催の環境イベントへの参加となります。

立川市環境フェアは、「多くの方に環境の大切さを知ってもらうとともに、環境に配慮した生活や行動を促すきっかけを提供すること」を目的として実施している環境イベント。今年も、6月2日（日）に開催され、子どもたちを対象に「ペットボトルラベルを活用したしおり作り体験教室」を提供しました。海洋プラスチック

ク問題の現状と、その解決策の1つとしてペットボトルリサイクルを確実に実施することの大切さを伝えることをテーマに掲げ、当日は50人を超える子どもたちに環境教育活動を実践することができました。この環境イベントはゼミ生にとっても、非常に刺激的な学びの一日となったようであり、掲げたテーマを伝えることの難しさを実感したようでした。



ペットボトルリサイクルの実践



プラスチックごみの現況開設とクラフト体験

「体験から学ぶ防災～防災と言わない防災を目指して～」

< 人間関係学部人間関係学科社会・臨床心理学専攻 堀 洋元 准教授 >

このプロジェクト活動はゼミ学生が中心となって行うもので、今年で4年目を迎えました。今年度のプロジェクトでは、10月に行われる大妻多摩祭で、地域の方々とともに体験型防災ワークショップを実施し運営することで、地域の活性化や地域防災力向上の架け橋となることを目的としています。これまでのゼミでの活動内容をゼミ学生が紹介します。

防災ゼミ 1 防災食の食べ比べとおいしくするためのアイデア

防災食はレシピ通りに作るものと思っていましたが、アレンジすることによってさらに味の幅が広がることを知りました。例えば、ただのわかめごはんでもレシピ通りのお湯の分量ではなく、少し多めにするにより高齢者の方でも食べやすいお粥風になります。また、乾パンを砕いてスープに入れたクルトン風スープや、カルボナーラ pasta にチーズを入れて、さらに本格的なカルボナーラにすることができました。こうした体験で、非常時でもアレンジ次第で本格的な食事をとることができること、非常食だけでなく消費期限が長いものを常備しておくことと非常時に安心ということがわかりました。



防災ゼミ 2 防災ゲーム Day in そなエリア東京への参加

そなエリア東京（東京臨海広域防災公園）では、防災ゲームDayというイベントが行われていて、さまざまな防災教育に関するゲームや教材を体験しました。展示だけでなく、体験型プログラムも数多くあり、すごろくのようなボードゲーム形式のものや、広い建物内を利用して探索しながらヒントを見つけつつ津波からどう逃げるかといった動き回る形式もあり、楽しく参加しました。私は災害に対してあまり深く考えたことはありませんでしたが、そなエリア東京に行って、防災がいかに大事かということを考えさせられました。

防災ゼミ 3 火災時の避難行動をVRで体験

火災が起きた時の避難行動をVR（バーチャル・リアリティ）で1人ずつ体験しました。火災が起きた時、煙を避け、しゃがんでハンカチを口に当てて避難するという知識や避難経路、誘導灯についての知識が頭にあっても、火災が起きるまで実行することはあまりありません。でもVRを使うことで、実際に火災が起きているような感覚で、誘導灯に従い、避難経路を歩いているような避難行動の体験をすることができました。今回のVR体験を通して、身についた避難行動の知識、災害時の恐怖を体感したことが、今後災害が起きた際の避難行動にとっても役立つと思います。



防災ゼミ 4 身近なもので防災グッズを作る

ペットボトルにはさまざまな使い道があります。リサイクルして新たな素材になったり、洗って何度も使い回したり、便利なものです。今回のゼミでは、手軽にできる「ランプシェード」を作ってみました。コンセプトとしては、ただ単に懐中電灯のあかりを灯す無機質な避難生活ではなく、暮らしに楽しい明るさをもたらすことを目的として、日常でもおしゃれに活用できるものを目指しました。自分で防災グッズを作ることで意識を高め、より多くの備えを考えられるようになったのがこのワークショップの成果でした。

防災ゼミ 5 大妻多摩祭での体験型防災ワークショップに向けて

この日のゼミでは、大妻多摩祭での展示内容について話し合いました。前半は展示内容の案を出し合い、避難VR体験、防災食の展示と試食、ペットボトル・段ボールを使用した防災に役立つ作品の展示、防災クイズ・ゲームの実施を行うことを決定しました。後半は展示内容ごとに役割を決め、それぞれ作業を進めました。実際に作業を進めていく中で、新しいアイデアが生まれるなど、ワークショップに向けて有意義な話し合いが行われました。文化祭では「防災と言わない防災」をテーマに、女性ならではの視点で防災を考え直す「体験型防災ワークショップ」と称した展示を行いました。



地域連携活動

浴衣の着付け講座を開催

7月9日（火）から11日（木）の3日間、家政学部被服学科の阿部栄子教授の指導のもと、浴衣の着付け講座を千代田キャンパスF棟5階被服造形実習室で開催しました。

本学の学生や卒業生、地域の方々が参加しました。参加者の方々からは「楽しかった」「来年も参加したい」「浴衣で花火を見物に行きます」などの感想が寄せられました。後日受講生から「靖國神社のみたままつりに浴衣で行くことができ、嬉しかったです。来年は違う帯の結び方を覚えたいです」とメールが届きました。

また、千代田区在勤の男性からの受講希望に応じて、今回初めて男性向けの着付け講座も開催しました。何度も練習され、独りで着装できるようになり、「他の教室とは全然違う。これで地元のお祭りに参加して、地域活動に貢献できる」と、たいへん喜んでいました。



「大妻みちあそび」を開催

7月20日（土）に「大妻みちあそび」と題して、普段遊ぶことのできない道で、元気に遊んでお友だちをたくさんつくろう!という企画を実施。この企画は今年で2年目、児童学科との共同開催で実現しました。およそ100人の子どもと児童学科の学生80人が一緒に遊びました。

お絵かき、フラフープ、水鉄砲にしゃぼん玉など、思い思いの遊びを楽しみました。当日は曇りで、蒸し暑かったこともあり、大きなビニールプールでの水のかけあい、スイカ割り子どもたちに大人気でした。最初は保護者から離れようとしなかった子どもたちも、時間が経つにつれて本学の学生や初め

て会った子どもたちともすぐに仲良しになり、元気いっぱい走り回っていました。偶然通りかかった近所の子どもたちも参加して、まるで公園のようににぎやかになりました。保護者の方々からは「毎年やってるんですか?」「毎月行ってほしい!」「また参加したい」などの感想が寄せられました。



千代田区内一斉打ち水 オープニングセレモニーに参加

千代田区では、ヒートアイランド現象を緩和すべく毎年8月を「打ち水月間」として1カ月間打ち水を行っています。初日となる8月1日（木）に千代田区庁舎前で行われた千代田区内一斉打ち水のオープニングセレモニーに、本学教員、助手、学生10人が浴衣姿で参加しました。



小学生対象 夏休み企画

千代田キャンパス
CHIYODA CAMPUS

夏休み小学生講座を開催。昆虫標本や万華鏡作りで大盛り上がり!

8月24日(土)、千代田キャンパスで夏休み小学生講座「理科実験教室」&「工作教室」を開催し、35人の小学生が参加しました。

当日、理科実験教室は「黒点フレア観察」「植物による水の通り道の違いを調べる」「火山灰を調査する」「昆虫標本を作ろう」「自由研究に挑戦」の5つのテーマに分かれ、午前と午後で開催。工作教室は「かたちの色々～万華鏡を作ろう～」「かたちの色々～野菜スタンプエコバックを作ろう～」の2講座を、午後に開催しました。

今回の講座では、家政学部児童学科の石井雅幸教授と短期大学部家政科の堀口美恵子教授の指導のもと、本学学生のサポートを受けながら、一生懸命取り組む子どもたちの姿がとても印象的でした。お昼休みには、教員、学生と一緒に、お弁当を食べ、交流を深めました。「落ち着いた、きれいな校舎ですね」「大きくなったら、この学校で勉強したい」など、参加した小学生、保護者からも大好評でした。

理科実験教室



工作実験



キャンパスコンソ

千代田区キャンパスコンソ Oxford EMI Courseを実施

8月26日(月)～28日(水)の3日間、千代田キャンパスG棟アクティブラウンジを会場にOxford EMI Courseを開催しました。これは、大妻女子大学、共立女子大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、法政大学の5大学が2018年4月に「千代田区内近接大学の高等教育連携教育コンソーシアム」(略称：千代田区キャンパスコンソ)を設立し活動している中の共同FD事業として実施。イギリスから講師2人を招いて5大学合計15人の教員が英語による教授法を学びました。

当然授業は全て英語で、参加者は、グループワークで意見交換をしたり、体を動かしながらアクティブラーニングを行うなど、3日間盛りだくさんのプログラムを受講。全プロ

グラム終了後、修了証が一人ひとりに手渡され、記念写真とティーセレモニーで3日間の充実した学びを終えました。

千代田区キャンパスコンソでは、2019年後期からトライアルとして単位互換制度を開始。本格的な単位互換は2020年度から実施予定です。そのほか、学生合同ボランティアや地域の振興を支援する活動など、様々な取り組みを行っています。



包括交流協定

京都女子大学を訪問、交換留学生と対面

10月16日(水)、井上美沙子副学長(地域連携推進センター所長)ら一行は、京都女子大学を訪問し、本学から京都女子大学へ国内留学中の田中佳奈さん(社会情報学部情報デザイン専攻2年)と面会、その後、京都女子大学の林忠行学長、竹安栄子特命副学長など教職員の方々と懇談を行い、今後の連携・交流内容について意見交換を行いました。

大妻女子大学と京都女子大学は、2018年4月に包括交流協定を締結して今年で2年目、田中さんは、初の交換留学生として2019年10月から半年間、京都女子大学で学んでいます。

京都女子大学に到着後、学生食堂にて田中さんと面会。実家を離れた京都での寮生活を心配していました

が、田中さんはとても元気ハツラツとしていて「気持ちが悪く沈んでいる時に、職員の方からマンドリンの演奏会のご案内をいただき、感動してとても元気が出ました」と話していました。京都女子大学の事務部の皆さまの温かいご支援を受けながら、充実した学生生活を送っていることがわかりました。

その後、京都女子大学の教職員の方々と懇談では、今後さらに充実した交流ができるよう双方努めていくことを約束し、1時間30分にわたる懇談を終えました。



大妻女子大学 地域連携推進センター

<http://www.chiiki.otsuma.ac.jp/>

〒102-8357 東京都千代田区三番町12番地 大妻女子大学千代田キャンパス別館 7階 TEL.03-5275-6877